

## 「枚方市における食をめぐる現状と課題」

## 《構成》

■ 1. これまでの取組	・・・P2
■ 2. 食をめぐる現状	・・・P4
1. 健康分野の現状	
(1) 枚方市の健康	
(2) 食生活	
(3) 食の安全・安心	
2. 生産分野の現状	
3. 環境分野の現状	
4. 保育・教育分野の現状	
5. 地域における現状	
■ 3. 第2次枚方市食育推進計画における指標の達成状況	・・・P22
■ 4. 第2次枚方市食育推進計画の評価と課題	・・・P23

## 《ポイント》

- 現状については、市民意識調査や関係課による調査、枚方市統計白書等からデータを抽出し、グラフを中心に提示。
- グラフの説明については、主観的な見解は述べず、客観的に読み取れる内容のみを記載。
- 第2次計画で使用した統計をもとに、一部、現状に即した内容に改変。
- 第2次計画の評価と課題については、今後の基本方針や目標と併せて検討。

## ■ 1. これまでの取組

### 基本方向1 健全な食生活の実践

- 保育所（園）・幼稚園において、お便りの発行・給食内容や献立の展示・給食試食会・親子クッキング等の保護者に対する食育の啓発と食生活に関する相談・指導を実施。
- 市において、マタニティスクールや妊産婦・新生児・乳児の訪問指導、乳幼児健康診査、離乳食・幼児食講習会等の事業を通じ、保護者への食に関する指導や相談を実施。
- 市立の全小学校・中学校においては、「食に関する指導の全体計画、年間指導計画」を策定し、食育を計画的に推進し、授業や給食の時間を活用して、子どもたちの食に対する理解や関心が深まるよう働きかけを行った。
- 生活習慣病予防対策事業の一環として、北河内管轄内の保健所と合同による高校生食育リーダー研修会の実施や大学の学生食堂の栄養士等を対象に食育に関する講義を実施。
- 学校の食堂において、施設に応じた食環境整備の拡大や栄養改善を通して、大学・専門学校生の健康づくりの推進を目的とした研修会や講演会を行った。
- 市では、生活習慣病予防のための教室やマタニティクラス、離乳食・幼児食講習会において主食・主菜・副菜をそろえた食事についての講義を実施するとともに、個別に栄養相談・健康相談を実施し啓発している。また、住民健康診査受診者に対し、集団指導を行った。
- 妊産婦や幼児、幼児の保護者を対象に歯科健康診査を実施するとともに、35歳から80歳までの対象者（5歳きざみ）に対して歯周疾患検診を実施。
- 幼稚園、小学校、中学校で歯科健康診断を実施するとともに、幼稚園及び小学校においては、歯科衛生士による年齢に応じたブラッシング指導（実施学年は学校園が決定）を実施。

### 基本方向2 ネットワークによる食育推進と食文化の継承

#### ○食育推進をめざしたネットワークの構築と普及・啓発活動

さまざまな分野で食育活動に取り組んでいる団体等が情報を共有し、横のつながりを深め、市をあげて食育の推進を図るため、平成19年2月に「枚方市食育推進ネットワーク会議」を設置。教育や保育現場、農業、食品生産流通産業、保健医療、ボランティア団体等から推薦された人、及び公募で選ばれた人で構成しています。

また、平成20年度から毎年、食育の普及・啓発と関係機関・関係者のネットワークを深めることを目的としたイベントとして、枚方市、枚方市教育委員会、枚方市食育推進ネットワーク会議の主催により、「ひらかた食育カーニバル」を開催。

○食に関する基礎的な知識を有する市民（人材）を養成するため、「ひらかた食育理解度チェック（H26～ひらかた食育Q&A）」と「食育ノート」を作成し、対象者（大人用：保健センター事業参加者 子ども用：市内小学5年生）に配布。

（参加者 H28：大人用 3,493人 子ども用 11,131人）

※平成23年度から実施している「ひらかた食育理解度チェック」について、大人を対象として行っていたが、内容と対象を見直し、平成26年度からは、子ども（市内小学5年生）を対象に加えた改定版にあたる「ひらかた食育Q&A」を実施。

○田畑での播種、植え付け、除草、施肥、収穫などの農業体験と、収穫した農作物の試食・加工体験を実施。

○地域の農業者、食品関連事業者や地域ボランティアによる出前授業が実施。

○食品関連事業者や流通産業での工場見学が実施。

○枚方市健康づくり食生活改善協議会、健康リーダーなどの健康づくりボランティアを養成する「健康づくりボランティア講座」を実施。

○健康づくりボランティアのスキルアップを目的とした研修を実施。

○健康づくりボランティアを中心に、生涯学習市民センター等で、健康料理教室や健康講座を実施。

### 基本方向3：地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進

○市民の農業や食への関心を高めるため、地元農家が育てた野菜を収穫する農業イベントとして「農業ふれあいツアー」を実施し、また、農業と住民の交流を図るため「農業まつり」を開催。

○手つかず食品の削減や、作りすぎ・食べ残しをしないことなどを中心に啓発を行う「スマートライフ啓発キャンペーン」を実施。

### 基本方向4：食の安全・安心の確保と安全性や栄養等の情報発信

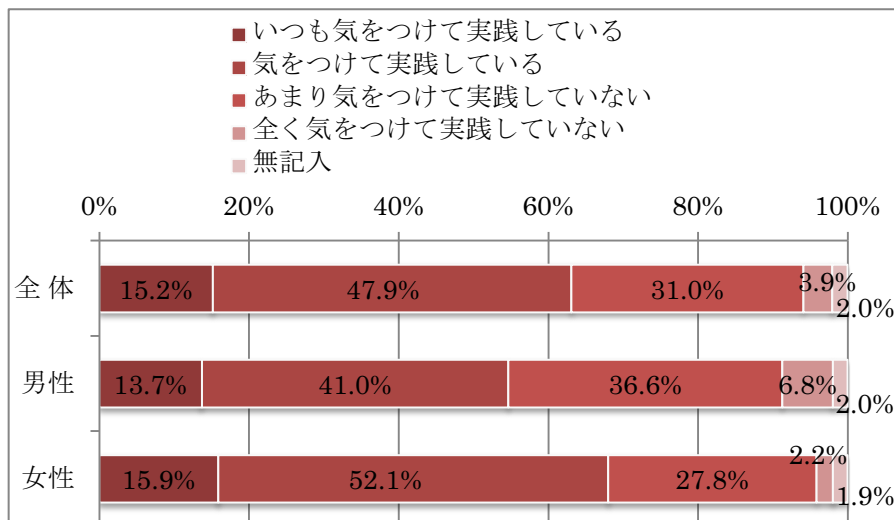
○保育所等の調理関係者や福祉関係施設の管理者及び食品営業団体等を対象に衛生講習会を実施。また、広報ひらかたやホームページ、FMひらかたなどで、食中毒関連情報の発信や食中毒予防キャンペーンを実施。

## ■ 2. 枚方市の食をめぐる現状

### 1. 健康分野の現状

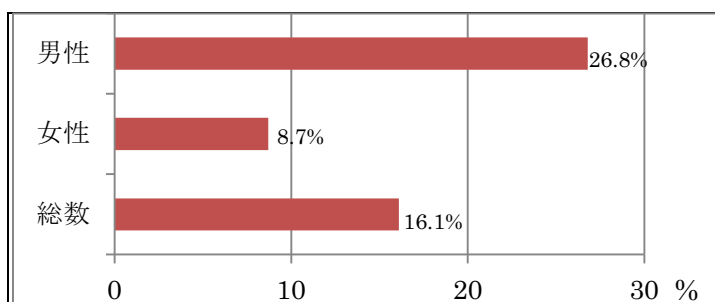
#### (1) 枚方市の健康

##### ●生活習慣病予防や改善のために適正体重や減塩などに気をつけた食生活



生活習慣病の予防や改善のための食生活について気をつけているという割合（「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」の計）は、全体では6割台（63.1%）となっている。性別にみると、男性で5割台（54.7%）に対し、女性では7割弱（68.0%）と13.3ポイント高い。

##### ●メタボリックシンドロームの割合



メタボリックシンドロームの割合は、男性26.8%、女性8.7%となっており、女性よりも男性に多い傾向があります。

平成27年度枚方市国民健康保険特定健康診査（受診者 21,919人）の結果

#### 内臓脂肪型肥満（リンゴ型肥）



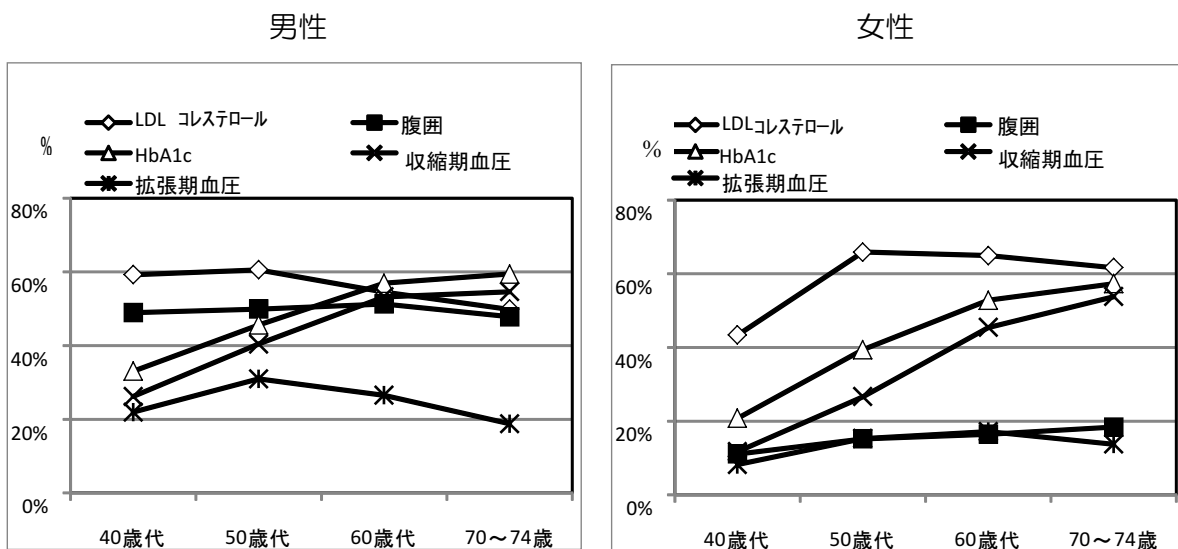
主に中高年の男性に多く、お腹のまわりに脂肪がたまります。メタボリックシンドロームのもとになり得る肥満です。

#### 「メタボリックシンドローム」とは？

##### 内臓脂肪による肥満

- +
- 血糖が高め
  - 血圧が高め
  - 血中脂質が異常
- 危険因子を2つ以上あわせ持っている

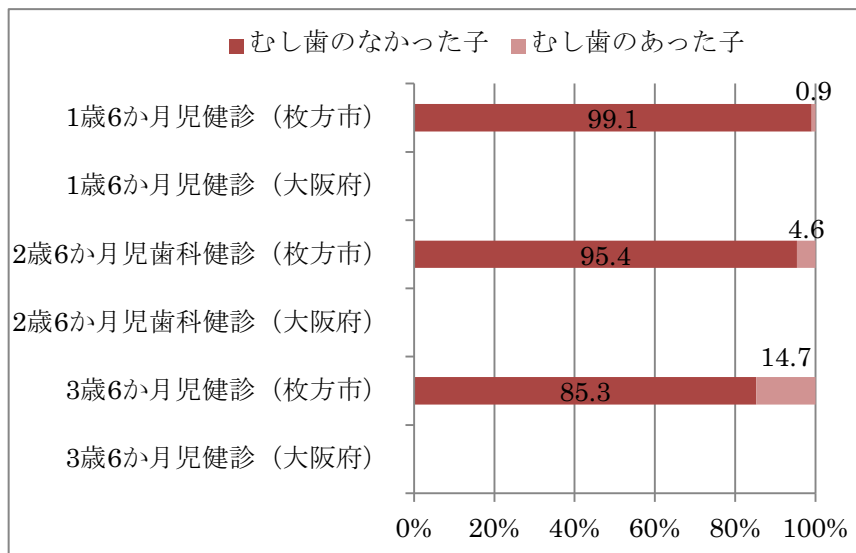
●市民（40歳以上）の健康診査結果における有所見者の割合



平成 27 年度枚方市国民健康保険特定健康診査（受診者 21,919 人）の結果

LDL コレステロールの有所見者の割合は、50 歳以上の年代では男女とも 60%を超えており、また、腹囲の有所見者の割合は、女性よりも男性が高くなっています。ヘモグロビン A1c と収縮期血圧の有所見者の割合は、男女を問わず年代とともに増加傾向にあります。

●幼児健診時のむし歯の有無

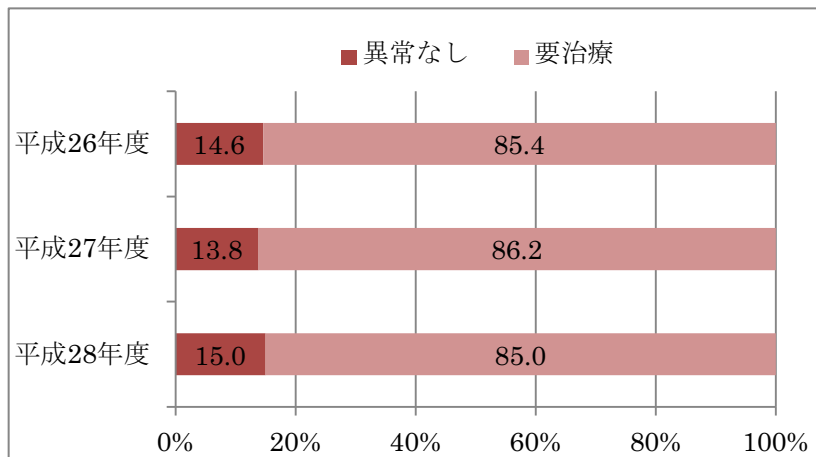


本市では3歳6か月児健診でむし歯のあった子どもの割合は 14%を超え、年齢とともにむし歯になる子どもが増加する傾向にあります。

この傾向は大阪府の実績にもみられます。また、本市は大阪府と比べ、むし歯のあった子どもの割合は〇〇です。（※大阪府の調査結果待ち）

平成 28 年度枚方市 1 歳 6 か月児健診（受診者数 2990 人）・2 歳 6 か月児歯科健診（受診者数 2773 人）  
3 歳 6 か月児健診（受診者数 2869 人）の結果及び平成 28 年度大阪府各健診における実績調査より

●成人歯科健診での保護者の歯の健康状態



1歳6か月児健診時にあわせ、その保護者を対象に歯科健診を行っています。

受診者の85%以上は「要治療」という結果になっており、この3年間は横ばいで推移しています。

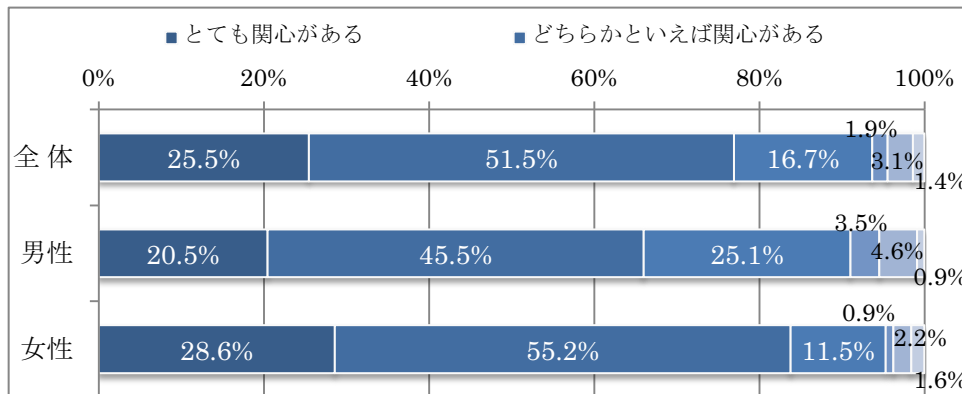
枚方市成人歯科健診結果 (H26: 受診者数 2889人)

枚方市成人歯科健診結果 (H27: 受診者数 2694人)

枚方市成人歯科健診結果 (H28: 受診者数 2659人)

(2) 食生活

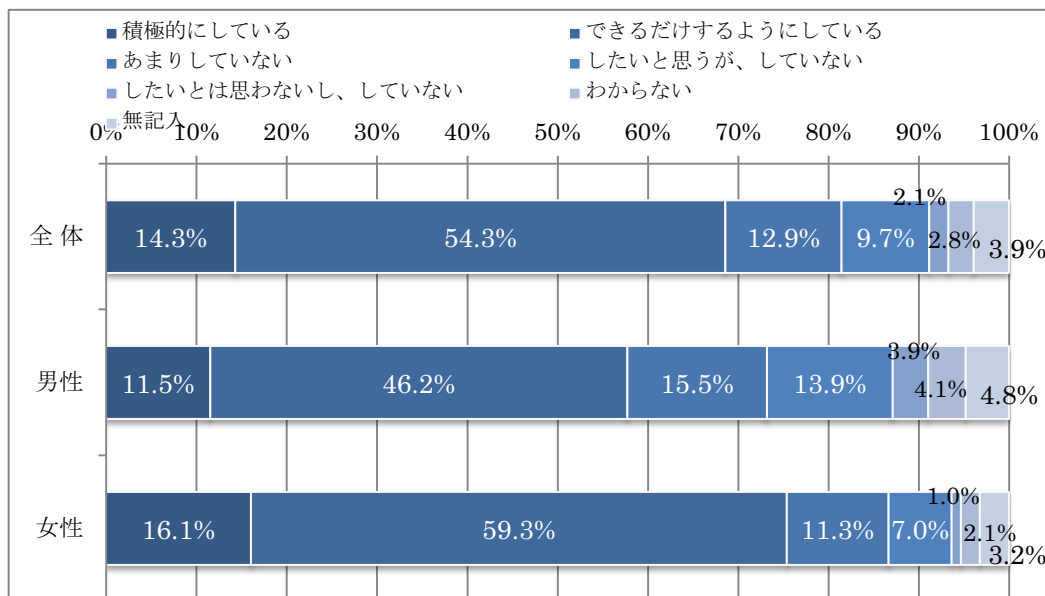
●食育に関心のある人



食育に関心があるという割合（「とても関心がある」「どちらかといえば関心がある」の計）は、全体では7割台（77.0%）となっています。性別にみると、男性で66.0%に対し、女性では83.8%と17.8ポイント高い傾向があります。

平成29年度枚方市「食」に関する市民意識調査

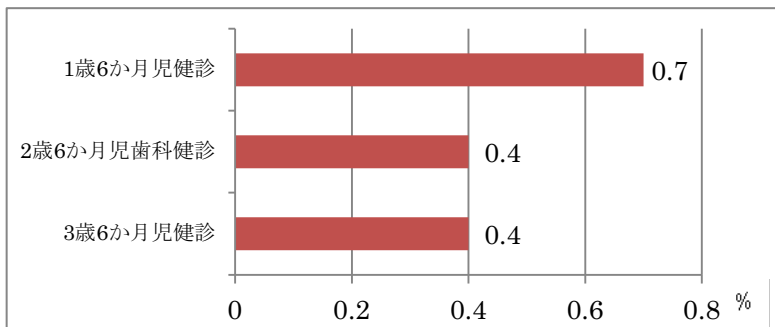
●食育活動を実践している人



食に関する行動や活動をしているという割合（「積極的にしている」「できるだけするようにしている」の計）は、全体では7割弱（68.6%）を占めています。性別にみると、男性で57.7%に対し、女性では75.4%と17.7ポイント高い傾向があります。

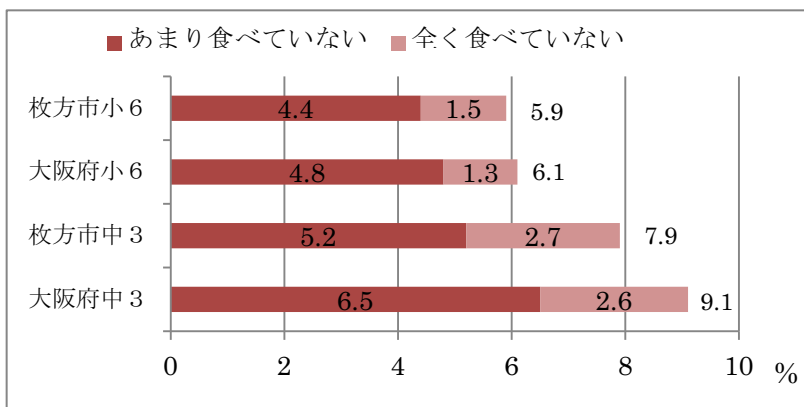
平成29年度枚方市「食」に関する市民意識調査

● 幼児の欠食（1日の食事回数が3回に満たない幼児の割合）



平成28年度幼児健診で1日の食事回数をたずねたところ、食事回数が3回に満たない幼児は、全体で1%未満となりました。年齢別で比較したところ、1歳6か月児が0.7%と2歳6か月児や3歳6か月児よりも高くなりました。

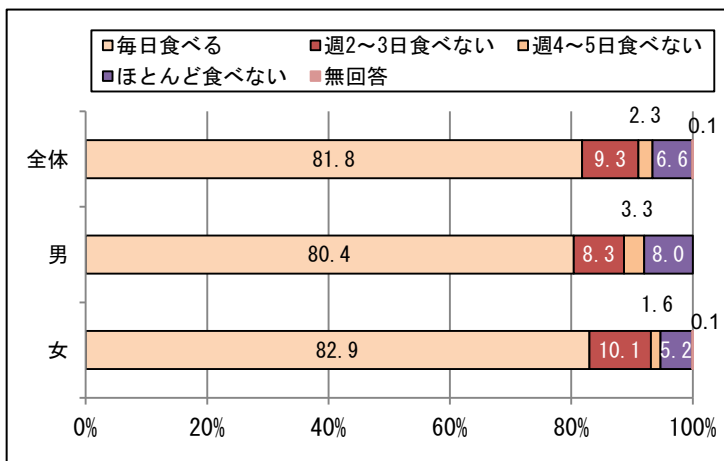
● 小学校6年生・中学校3年生の朝食の摂取状況



本市の小・中学生の朝食の欠食率は、平成28年度大阪府学力・学習状況調査によると、「朝食を毎日食べているか」の問いに対する小学校6年生の回答では、「あまり食べていない」4.4%、「全く食べていない」1.5%で合わせて5.9%、中学校3年生では、「あまり食べていない」5.2%、「全く食べていない」2.7%で合わせて7.9%でした。小学校6年生、中学校3年生ともに大阪府の平均を下回っています。

平成28年度大阪府学力・学習状況調査

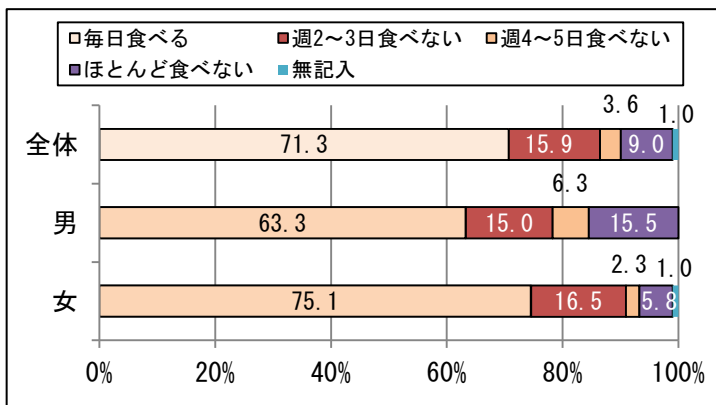
● 高校生の朝食の摂取状況



市内府立高校生に朝食の摂取状況をたずねたところ、81.8%が毎日朝食を食べている一方で、6.6%が朝食をほとんど食べていません。また、「ほとんど食べない」という回答の割合が、男子8.0%、女子5.2%で、女子より男子が高い傾向がみられます。

平成29年度枚方市「食」に関するアンケート 市内府立高校6校 (1,400人)

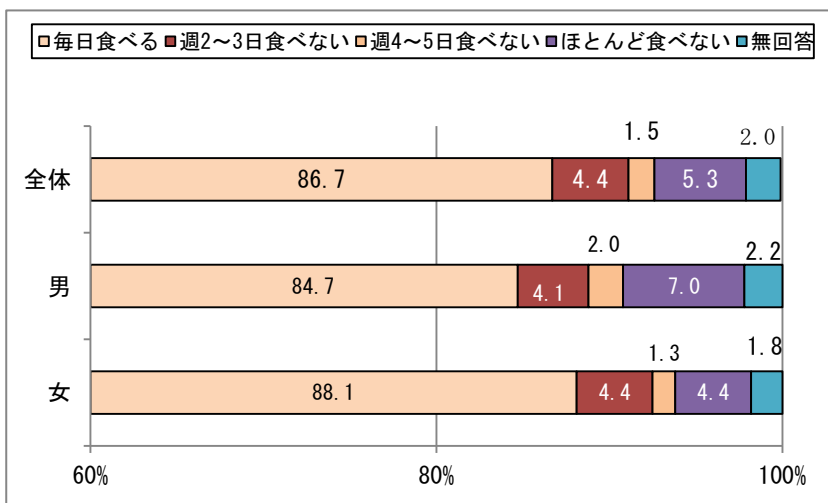
●大学生・専門学校生の朝食の摂取状況



市内大学生・専門学校生に朝食の摂取状況をたずねたところ、71.3%が毎日朝食を食べている一方で、9.0%が朝食をほとんど食べていません。また、「ほとんど食べない」という回答の割合が、男性 15.5%、女性 5.8%で、女性より男性が高い傾向がみられます。

平成 29 年度枚方市「食」に関するアンケート 市内の大学および専門学校 (641 人)

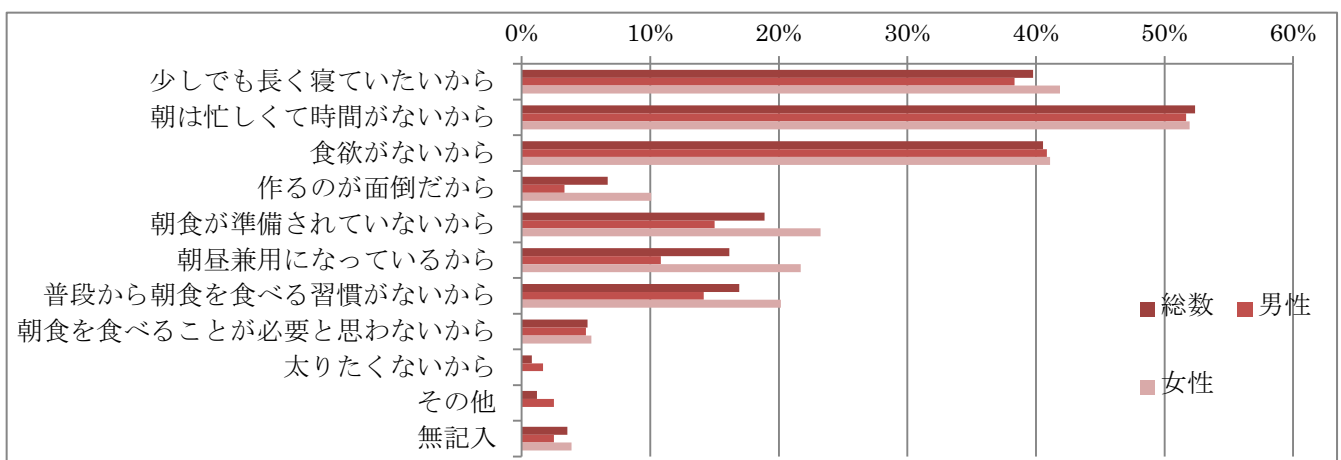
●20 歳以上の市民の朝食の摂取状況



20 歳以上の市民に対して朝食の摂取状況をたずねたところ、86.7%が毎日朝食を食べている一方で、5.3%が朝食をほとんど食べていません。また、「ほとんど食べない」という回答の割合が、男性 7.0%、女性 4.4%で、女性より男性が高い傾向がみられます。

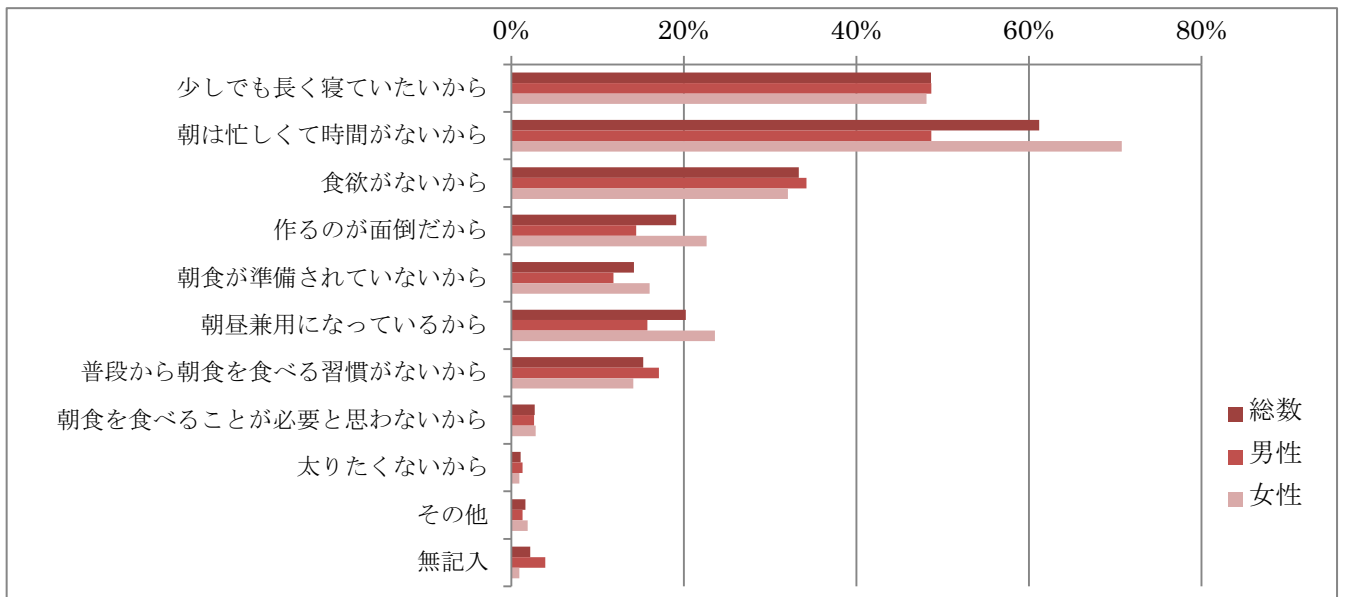
平成 29 年度枚方市「食」に関する市民意識調査

●高校生が朝食を食べない理由

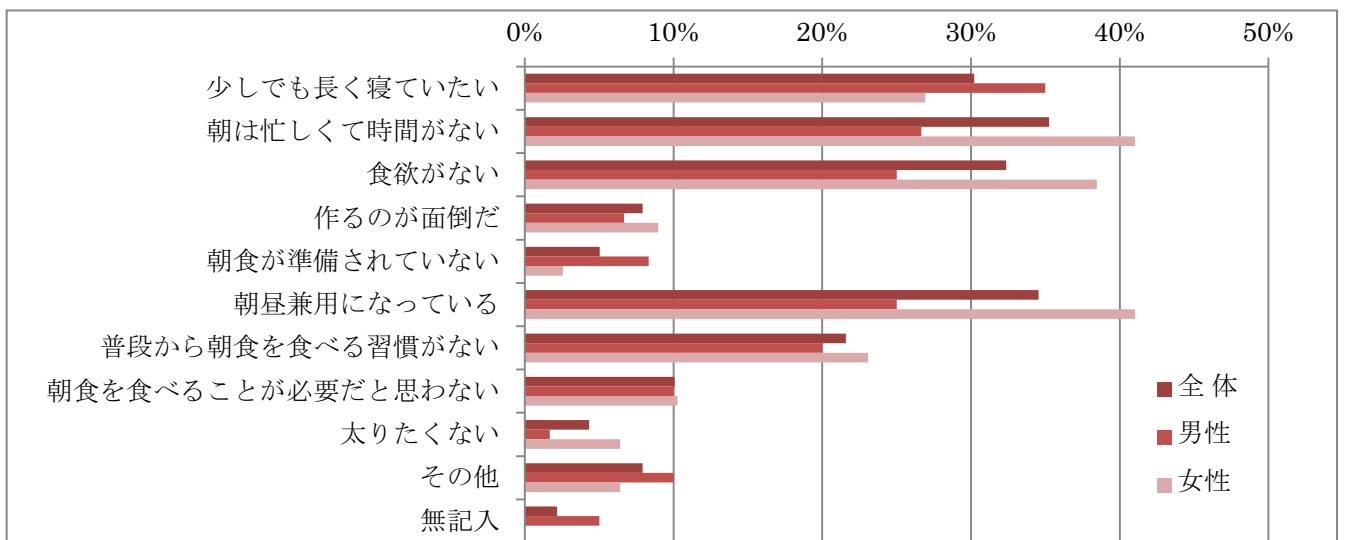




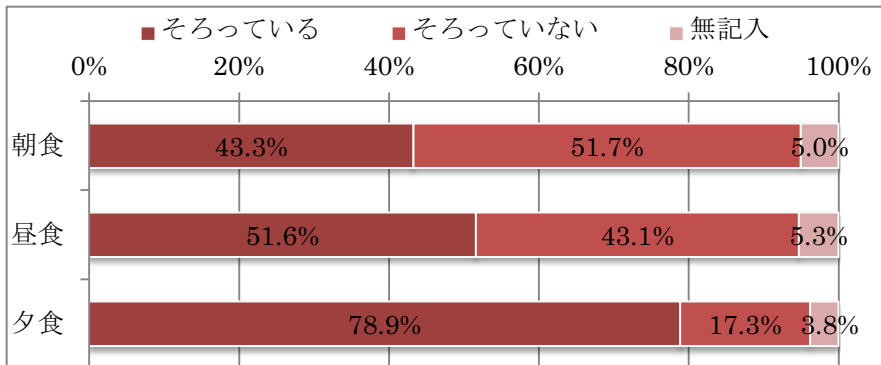
●大学生・専門学校生が朝食を食べない理由



●20歳以上の市民が朝食を食べない理由

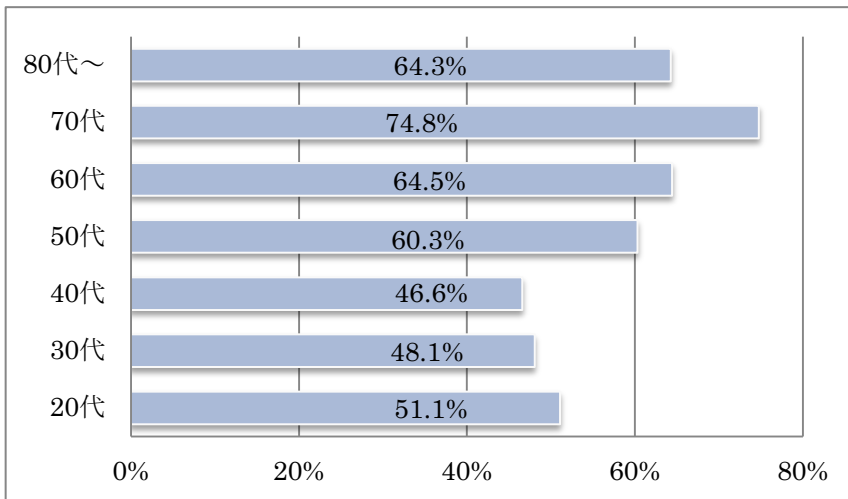


●主食・主菜・副菜がそろった食生活（食事別）



ふだんの食事について、主食・主菜・副菜が「そろっている」という割合について、全体でみると、『夕食』で8割弱（78.9%）を占めるのに対し、『昼食』では5割台（51.6%）、『朝食』では4割台（43.3%）となっています。

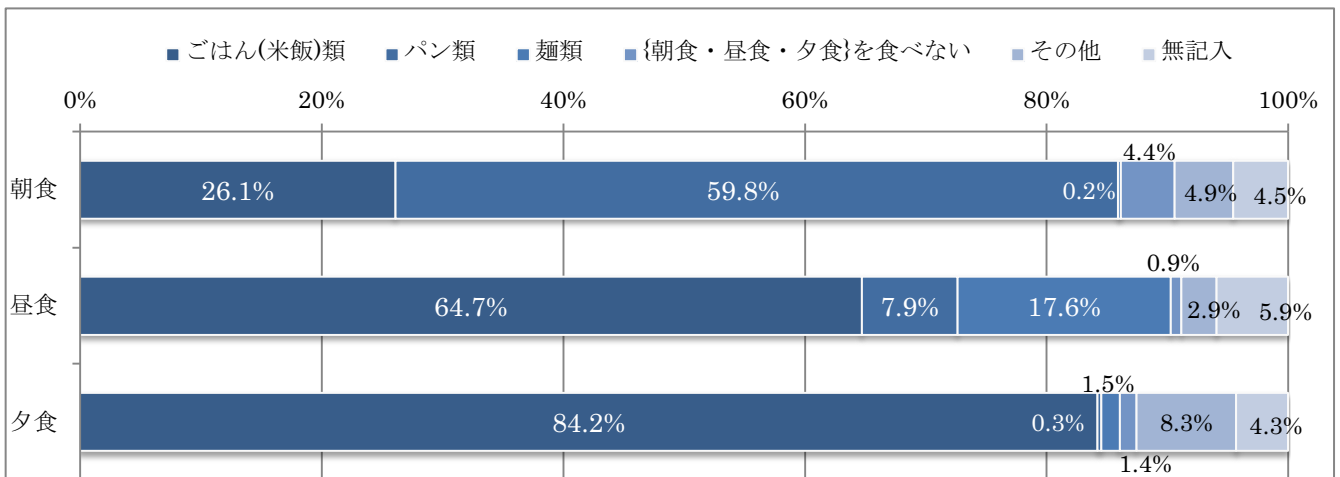
●主食・主菜・副菜がそろった食生活（年齢別）



1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜がそろった人の割合は、70代が74.8%で最も高く、40代が46.6%で最も低い結果となりました。50代以上はいずれも60%を超える高い数値であるのに対し、30代が48.1%、20代が51.1%となり、20～40代が低い結果となりました。

平成29年度枚方市「食」に関する市民意識調査

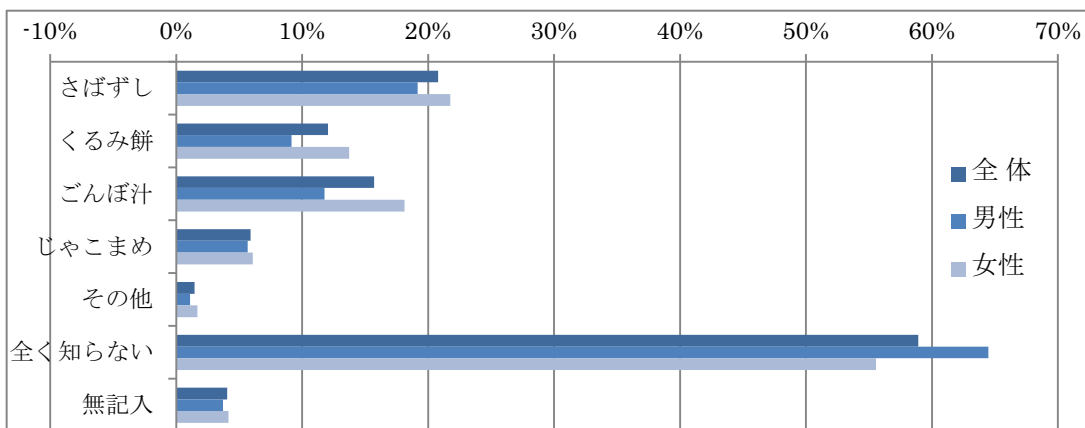
●よく食べる主食について



平成29年度枚方市「食」に関する市民意識調査

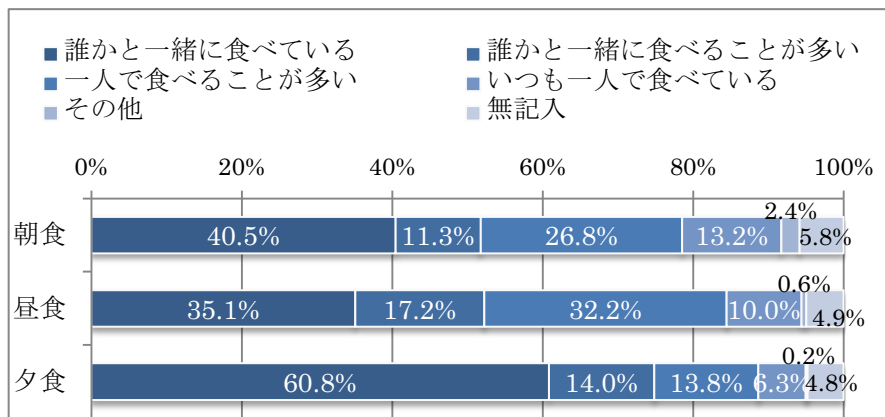
主食の内容について全体でみると、「ごはん中心」が『夕食』で8割台（84.2%）、『昼食』で6割台（64.7%）を占めるのに対し、『朝食』では「パン中心」が約6割（59.8%）を占めています。

●枚方市の郷土料理を知っている市民



平成29年度枚方市「食」に関する市民意識調査

●家族や友人など、誰かと一緒に食べる共食について

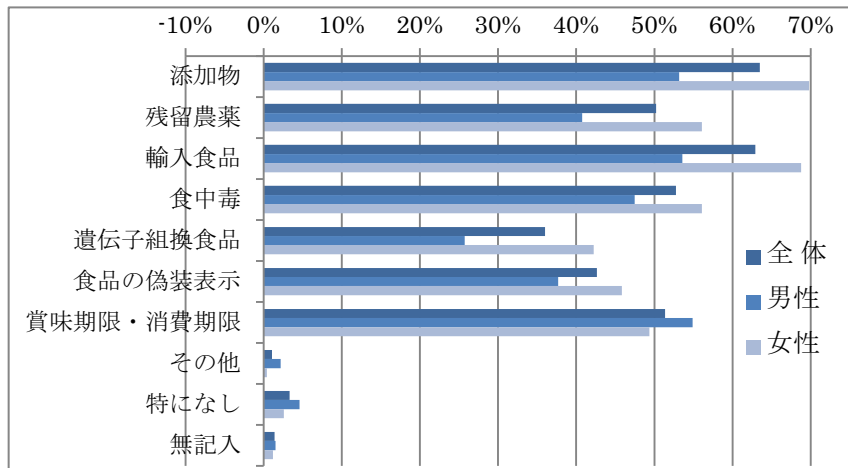


朝・昼・夕食を「誰かと一緒に食べている」または「誰かと一緒に食べることが多い」という割合（計）について、全体でみると、『夕食』では7割台（74.8%）を占めており、『昼食』（52.3%）、『朝食』（51.8%）では5割台となっています。

平成 29 年度枚方市「食」に関する市民意識調査

(3) 食の安全・安心

●食の安全性について不安に思うこと



食の安全について不安に思うこととしては、全体では「添加物」（63.5%）、「輸入食品」（62.9%）が6割台と高くなっている。

性別にみると、概ねいずれの項目も女性のほうが割合が高く、特に「添加物」、「輸入食品」、「残留農薬」、「遺伝子組換え食品」では15ポイント以上の差がみられる。

平成 29 年度枚方市「食」に関する市民意識調査

●食品衛生に関する苦情・相談

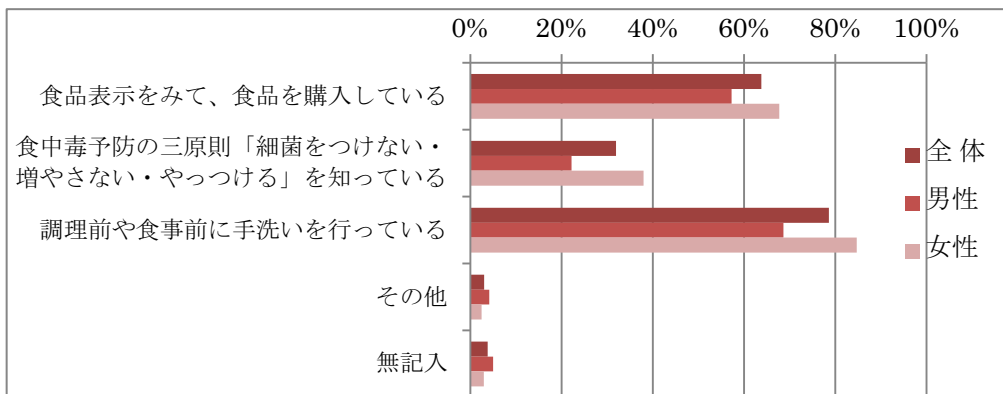
	苦情	相談	合計
平成 26 年度	146	1,841	1,987
平成 27 年度	65	1,765	1,830
平成 28 年度	55	1,639	1,694

枚方市保健所に寄せられる食品衛生に関する苦情、相談件数は、減少傾向にあります。ここ3年で最も件数の低い平成28年度で1,694件となっています。

保健所で処理した食品衛生に関する苦情・相談件数

●食の安全に関する知識と行動

平成 29 年度枚方市「食」に関する市民意識調査

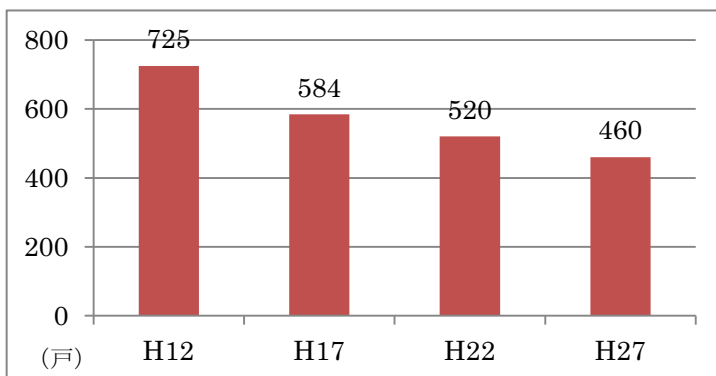


安全な食生活に向けて日ごろから意識していることとしては、全体では「調理前や食事前に手洗いをやっている」が8割弱（78.6%）と最も高く、次いで「食品表示をみて、食品を購入している」が6割台（63.8%）となっています。

性別にみると、いずれの項目も女性のほうが10～15ポイント前後高くなっています。

2. 生産分野の現状

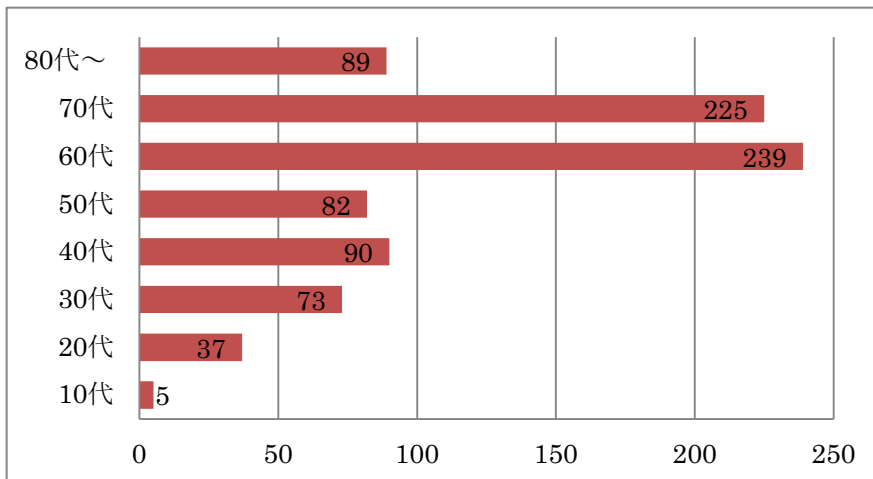
●農家数の推移



農家数は年々減少傾向にあり、平成 27 年度の農家数は、平成 12 年度の農家数の約 63%となっています。

枚方市統計書（平成 28 年版）

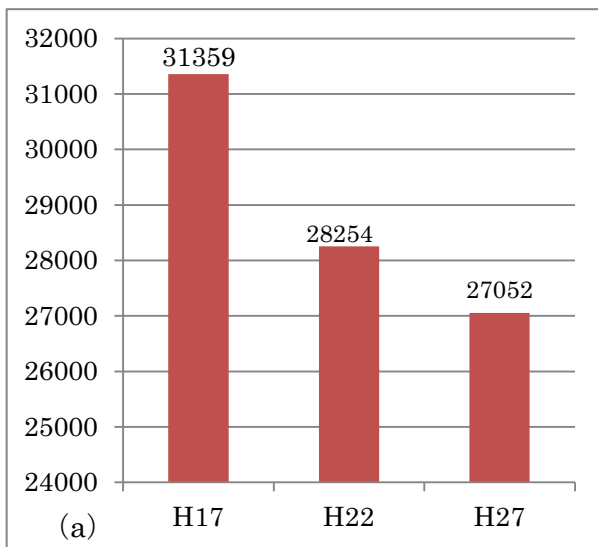
●農業就業人口の年齢構成



農業就業人口の年齢構成では、60代が最も多く239人で、28.5%となっています。60代以上で、全体の65.8%を占めています。

平成 27 年度国政調査 枚方市データ（総務省） ※15歳以上の就業人口

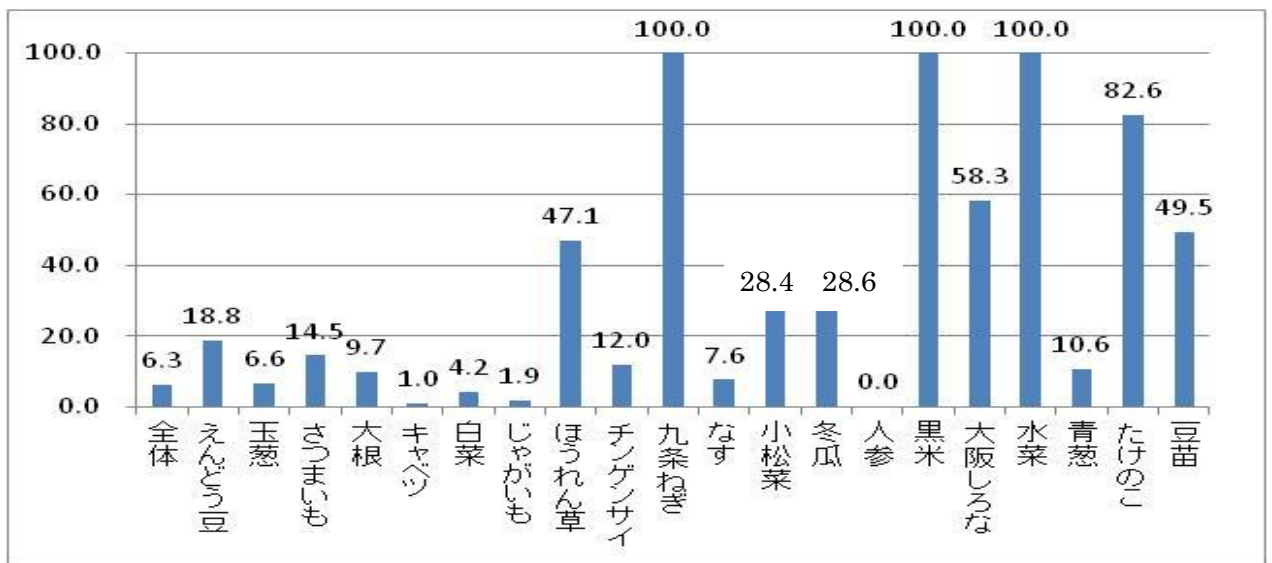
●経営耕地面積の推移



経営耕地面積も農家数と同様に、年々減少傾向にあり、平成 27 年度の経営耕地面積は、平成 17 年度の経営耕地面積の約 86%となっています。

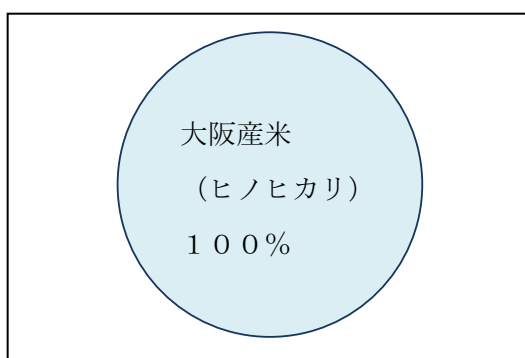
枚方市統計書（平成 28 年版）

●地産地消への取組



枚方市教育委員会学校給食課調べ（平成 28 年度）

●小学校給食での大阪産米の使用割合



枚方市教育委員会学校給食課調べ(平成 28 年度)

市内小学校での学校給食で使用する枚方産・大阪産農産物（野菜・黒米）は、現在 20 品目あります。農産物全体の購入量に対する枚方産・大阪産の使用購入割合（重量ベース）は、6.3%となっています。九条ねぎ、黒米、水菜は 100%である一方、人参 0.0%、キャベツ 1.0%、じゃがいも 1.9%、白菜 4.2%となっています。

また、平成 28 年度の小学校給食における米については、大阪産ヒノヒカリを 100%使用しました。

米を含めた農作物全体使用量に対する枚方産・大阪産農作物使用割合（重量ベース）は、33.1%となります。

●地域における地産地消の促進事業

平成 28 年度実施事業例	
◇ふれあいツアー（地元農産物の収穫体験）	参加者：4,814 人
◇農産物直販事業	実施回数：829 回
◇枚方産大阪工コ農産物販売会	実施日：7月11日、12月26日
◇農産物展示品評会・即売会	実施日：7月11日、11月28日
◇農業まつり（年1回）	実施日：11月19日

枚方市農業振興課調べ

地域における地産地消の促進事業として、ふれあいツアー（地元農産物の収穫体験）や農産物直販事業が実施されています。枚方産の大阪工コ農産物を市民に身近に知っていただくため、販売会を実施しました。

●地域における生産活動体験事業

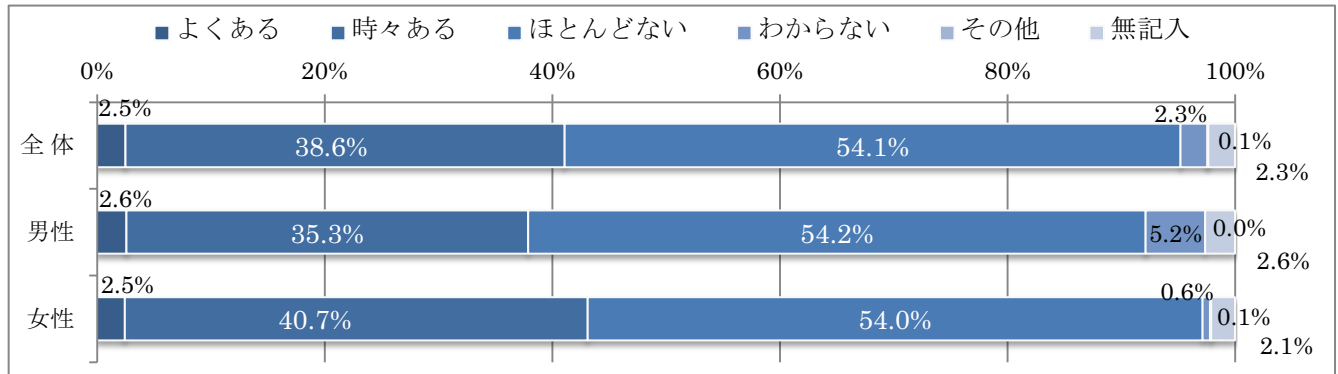
平成 28 年度実施事業例	
◇市民ふれあい農園（農空間の活用）	農園数 31 入園者数 977 人
◇小学生の食農体験学習支援事業	実施校数 17

枚方市農業振興課調べ

地域における生産活動体験事業として、市民ふれあい農園や小学生の食農体験学習支援事業を実施しています。食農体験学習支援事業は、「いのちのつながり」や「食の大切さ」を学ぶことで、子どもたちにその基礎となる農業を効果的に理解してもらおうと、平成 20 年度から試行実施し、平成 22 年度から本格実施しています。

3. 環境分野の現状

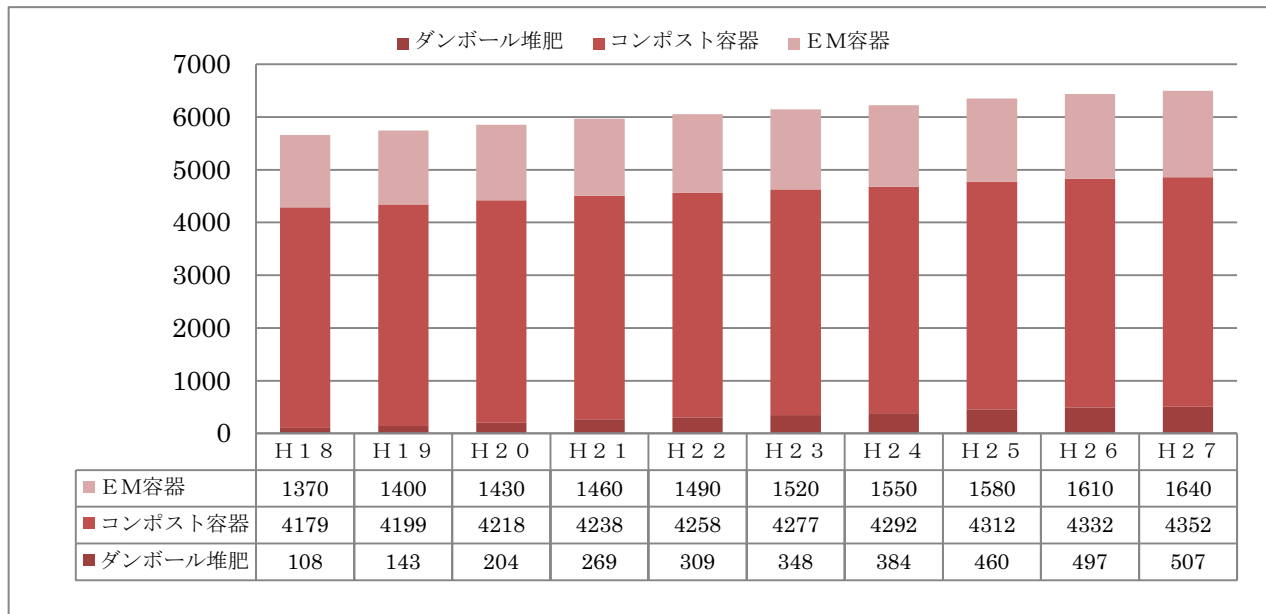
●食品ロスについて



食べ残しや手つかず食品を家庭で処分することがあるという割合（「よくある」「時々ある」の計）は、全体では4割台（41.1%）となっている。性別にみると、男性で37.9%に対し、女性では43.2%と5.3ポイント高い。

●生ごみの再利用

枚方市減量業務室調べ



家庭ごみには生ごみが約 40%含まれており、生ごみのたい肥化推進は大きな減量効果をもたらします。本市では、有用微生物群（EM）容器、生ごみたい肥化促進容器（コンポスト容器）やダンボール箱等を活用した、たい肥化事業を実施しています。また、食を通して環境問題への関心と理解が深まるよう、環境に配慮した食育を計画的に推進します。

●環境に配慮した食料の生産

◇エコ農産物普及拡大事業

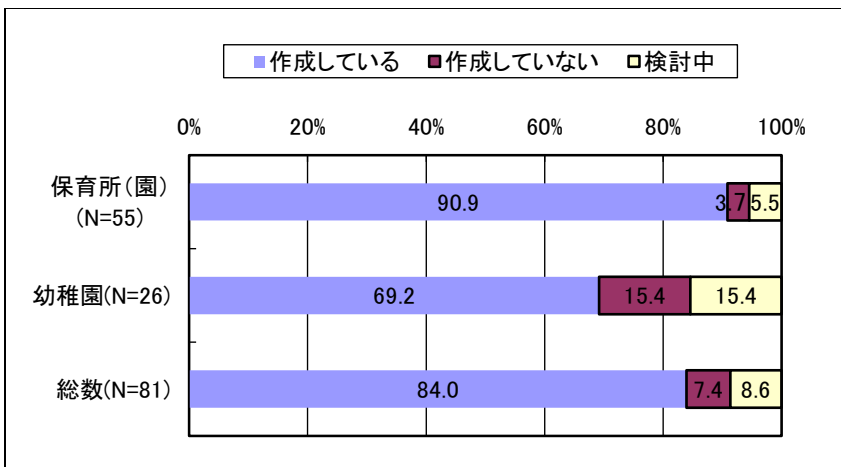
減農薬・減化学肥料の環境にやさしい農業を推進し、市民により安全で安心な農産物を供給することを目的に、平成 16 年度から大阪エコ農産物認証制度の取組を始め、平成 28 年度は、個人申請では延べ 50 農家・延べ 256 作物・作付面積 960a の申請がありました。集団申請ではエコレンゲ米 140 農家・作付面積 4,818a、黒豆の枝豆 4 農家・作付面積 20a の申請がありました。また、市民にこの取組を周知し消費拡大を図るため、枚方産大阪エコ農産物について、販売会を 2 回開催しました。

◇エコレンゲ米生産支援事業

平成 11 年度からレンゲ草を有機肥料として使うことで施肥量の軽減を図る水稻栽培の取組を始め、平成 22 年度からは大阪エコ農産物認証を得て農協ブランド「しあわせのれんげっ娘」（エコレンゲ米）として販売しています。レンゲ栽培田の拡大を図るため、レンゲ種子購入補助を行っており、平成 28 年度のレンゲ種子購入補助は 2,004kg でした。

#### 4. 保育・教育分野の現状

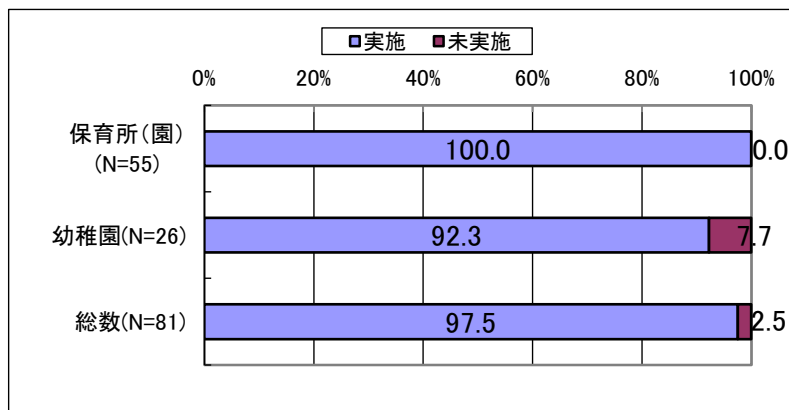
##### ●保育所（園）・幼稚園・認定こども園における食育の計画の作成



食育の計画を作成している保育所（園）は90.9%、幼稚園は69.2%、総数は84.8%です。

平成28年度保育所（園）・幼稚園における食育取組状況アンケート（保育所（園）55園、幼稚園26園）

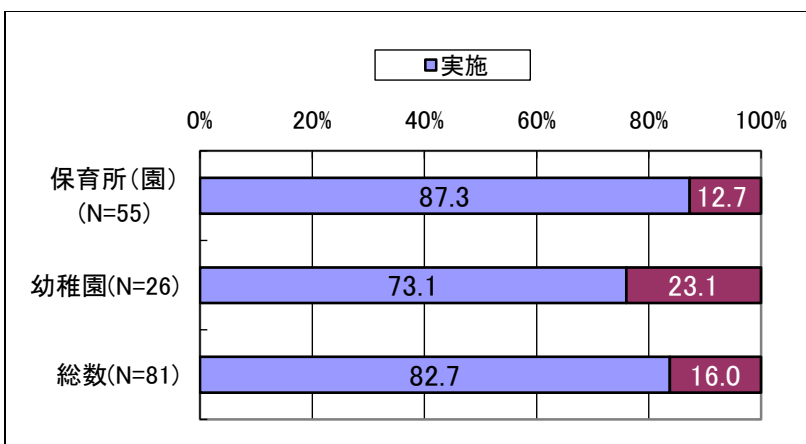
##### ●園児対象の食育の取組状況



園児対象の食育の取組を実施している保育所（園）は100.0%、幼稚園は92.3%、総数は97.5%であり、ほとんどの保育所（園）・幼稚園で食育の取組を実施しています。

平成28年度保育所（園）・幼稚園における食育取組状況アンケート（保育所（園）55園、幼稚園26園）

##### ●保護者対象の食育の取組状況

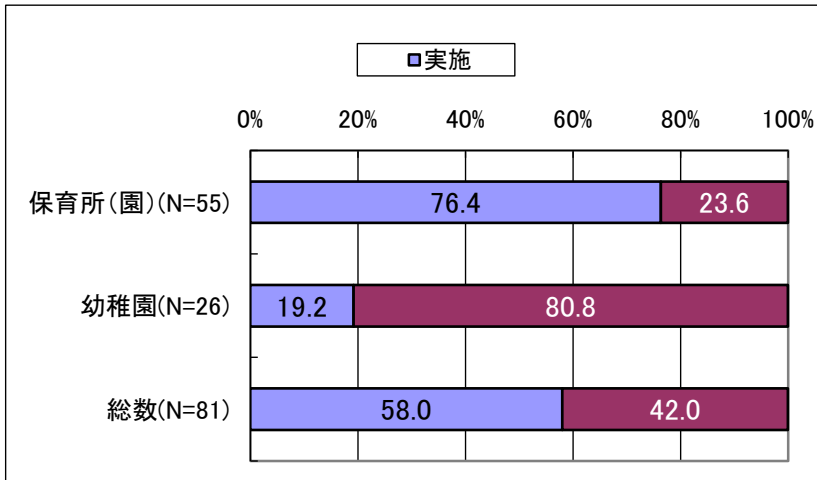


保護者対象の食育の取組を実施している保育所（園）は87.3%、幼稚園は73.1%、総数は82.7%です。

平成28年度保育所（園）・幼稚園における食育取組状況アンケート（保育所（園）55園、幼稚園26園）



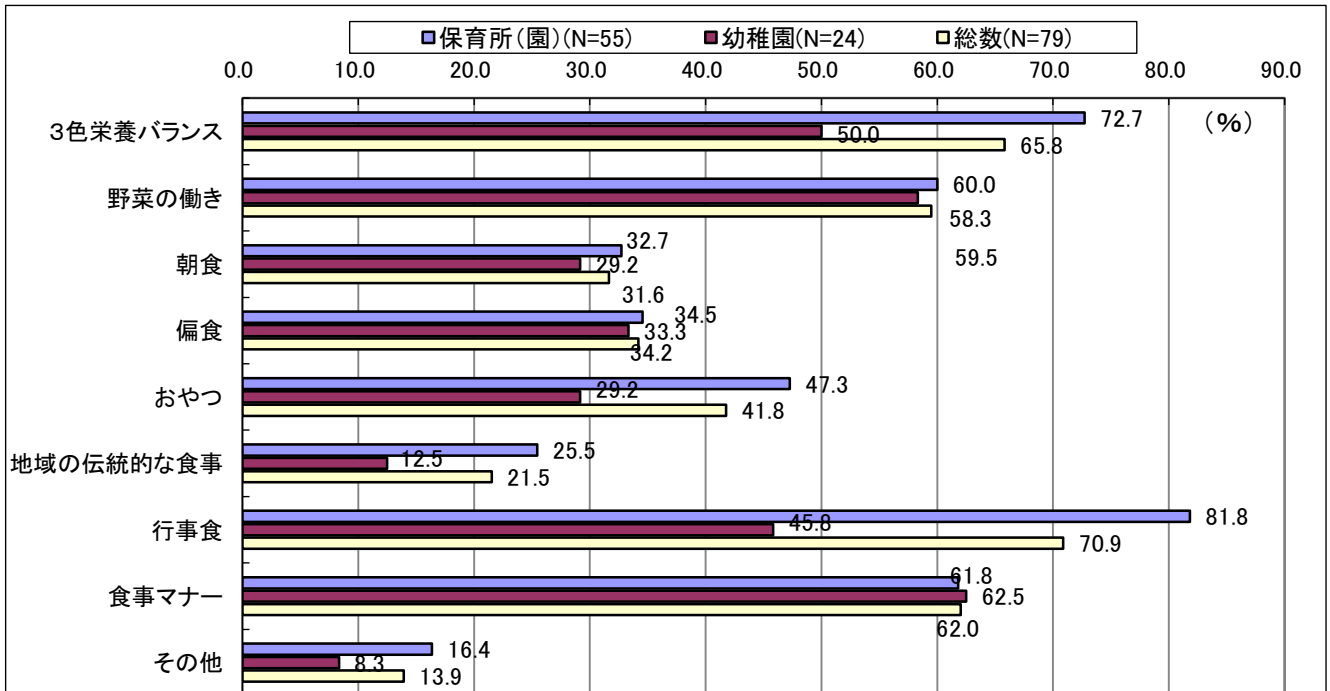
●保育所（園）・幼稚園で実施している在宅親子対象の食育取組状況



在宅親子対象の食育の取組を実施している保育所（園）は 76.4%、幼稚園は 33.3%、総数は 65.9%であり、園児対象やその保護者を対象にした取組状況よりも低い数値となっています。

平成 28 年度保育所（園）・幼稚園における食育取組状況アンケート（保育所（園）55 園、幼稚園 26 園）

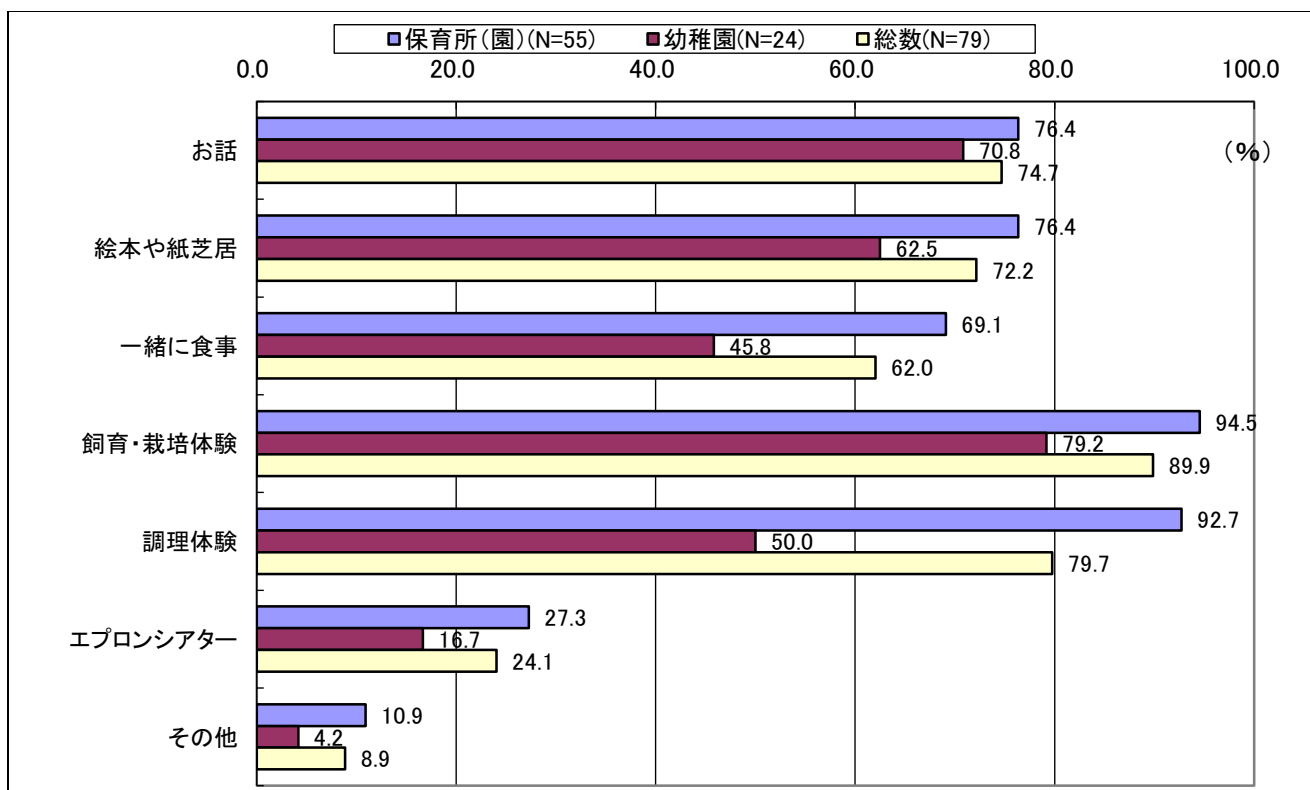
●園児対象の食育の実施内容と実施率（複数回答）



平成 28 年度保育所（園）・幼稚園における食育取組状況アンケート（保育所（園）55 園、幼稚園 26 園）

保育所（園）・幼稚園で多く取り組まれている園児対象の食育の内容は、行事食や食事マナー、3色栄養バランス、野菜の働き、となっています。一方で、地域の伝統的な食事の実施率は他の内容よりも低くなっています。

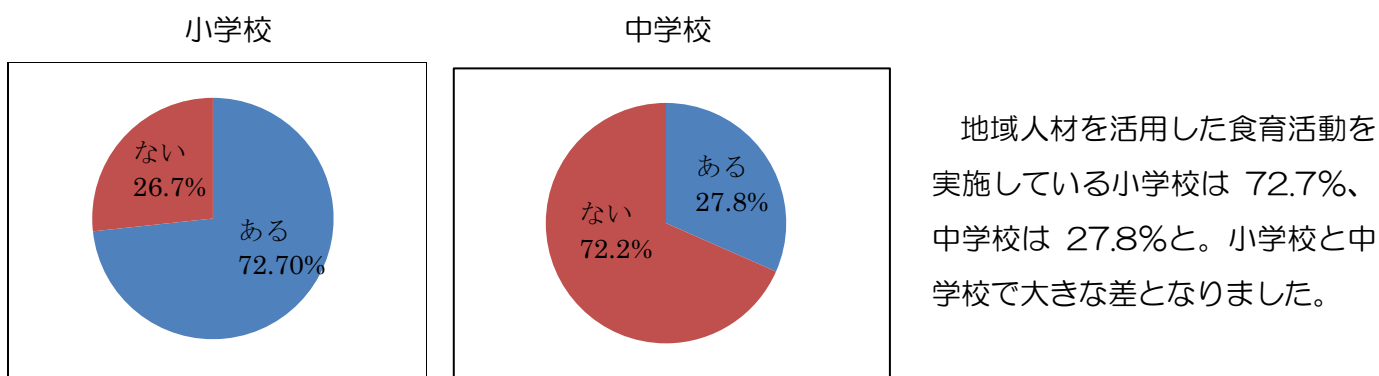
●園児対象の食育の実施方法と実施率（複数回答）



平成 28 年度保育所（園）・幼稚園における食育取組状況アンケート（保育所（園）55 園、幼稚園 26 園）

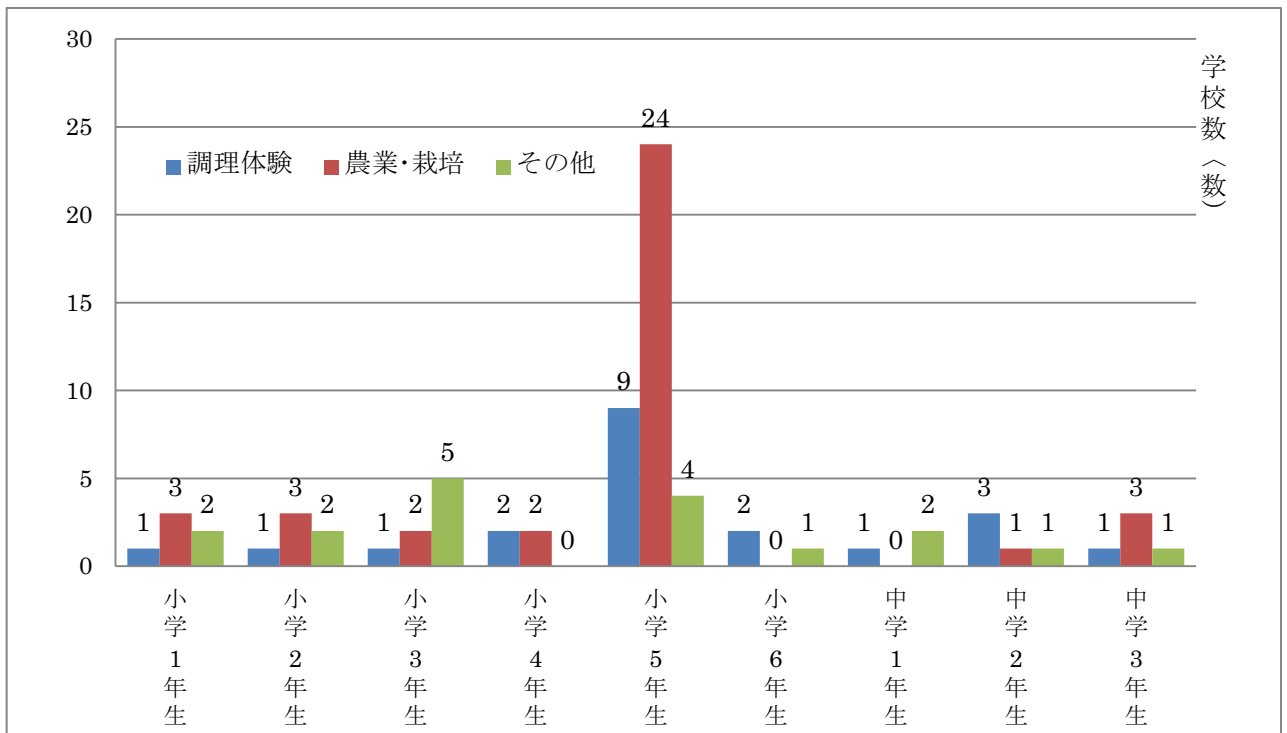
保育所（園）・幼稚園で多く取り組まれている園児対象の食育の実施方法は、飼育・栽培体験や調理体験、お話、絵本や紙芝居となっています。

●小中学校における地域人材を活用した食育活動の実施状況

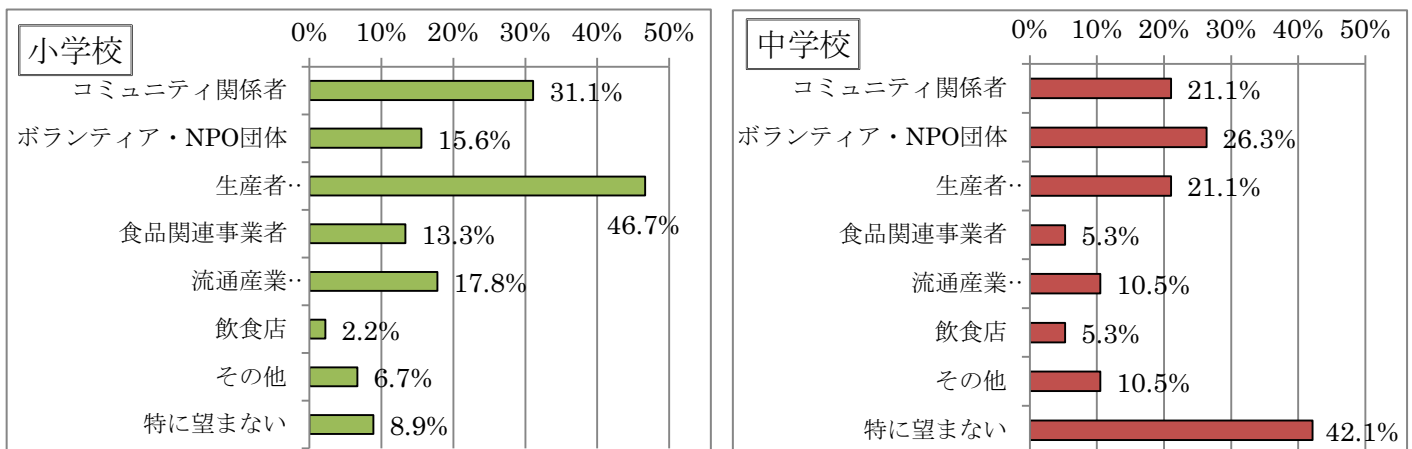


平成 29 年度枚方市小中学校での食育の取組に関するアンケート（市立小中学校 64 校）

●小中学校での地域人材を活用した体験学習の現状



●小中学校が食育活動を実施するにあたり協力を希望している地域人材



小学5年生で地域人材を活用した体験学習が多く、農業・栽培体験は24校ありました。学校が食育活動を実施するにあたり協力を希望している地域人材は、小学校では生産者46.7%、コミュニティ関係者31.1%の順に多く、中学校では特に望まないが42.1%が最も多く、続いてボランティア・NPO団体が26.3%となりました。

●小学校の学校給食における取組

本市では、45の市立小学校全てで給食を実施しています。安全で美味しい給食を子どもたちに届けるため、枚方市学校給食会と教育委員会とが連携した取組を行っています。

旬の食材をつかった美味しい料理や行事食、郷土料理、世界の料理などを取り入れるなどの工夫をするとともに、それらの取組を情報発信しています。

また、食物アレルギー対応としては、「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」に基づき全校一斉の運用を行っています。より一層の安全を確保するため、平成28年7月から食物アレルギー対応献立表に27アレルゲンを記載するとともに、7大アレルゲンのうち給食で使用する4アレルゲンを色分け表記しています。

方法	対象	内容
学校給食献立表	保護者 児童	毎月作成（8月下旬は9月分に含む）し、毎日の給食献立と使用する全ての食材を掲載し、学校を通じて家庭へ配付しています。
市ホームページ	保護者等	学校給食献立表、アレルギー対応献立表および配合割合一覧表を掲載するとともに、「学校給食について」記載しています
日めくりカレンダー	児童	毎日の献立で伝えたい料理や食材、食べ方等のポイントを記載しています。教室や調理場に掲示したり給食時間に児童が校内放送や教室で読みあげる等、活用しています。
給食だより	保護者 児童	各学校、調理場で毎月作成しています。食に関する話題や家庭での食生活に関するお願い等を家庭へお知らせしています。

## 5. 地域における現状

### ●枚方子どもいきいき広場での「食育プログラム」の取組（平成 28 年度）

テーマ	活動内容（小学校区数）
苗植え体験	野菜（玉ねぎ・いも）の苗植え（7 校区） 果物（いちご）の苗植え（1 校区） 田植え（3 校区）
収穫体験	野菜（玉ねぎ・いも等）の収穫（14 校区） 果物（いちご・みかん）狩り（1 校区） 稲刈り（2 校区）
和風料理	手打ちうどん作り（4 校区） 巻き寿司作り（8 校区） おにぎり作り（2 校区）
日本のおやつ作り	団子作り等（3 校区）
食文化	餅つき（13 校区） 茶道（14 校区） 流しそうめん（6 校区） 豆まき（1 校区） 七草がゆ作り（2 校区） すいか割り（2 校区）
その他	家庭料理作り（18 校区） 洋菓子作り（18 校区） カレー作り（14 校区） 外国料理作り（1 校区）

枚方市子ども青少年政策課調べ

各小学校区で実施されている枚方子どもいきいき広場事業では、スポーツや文化活動、伝承遊び等の世代間交流のほか、食育に関するプログラム等にも取り組まれています。

その内容はバラエティに富み、料理教室やおやつ作りが多くの校区で実施されています。また、苗を植え、収穫し、調理して食べるという継続的な内容で実施している校区もあり、地域の特性を活かしたさまざまな取組が行われています。

このような体験を通じて、子どもたちが食に関する知識を得て、生涯にわたって豊かな食生活を送ることができるよう今後も食育に関するプログラムを活発に取り入れていくことが望まれます。

### ●ボランティアによる食育推進

#### ◇食育推進に携わるボランティア

○枚方市健康づくり食生活改善推進員	154 人
○枚方市健康リーダー	170 人
（平成 29 年 2 月現在）	

食育推進に携わるボランティアの活動により、食育の普及・啓発や健康づくり活動の促進、伝統食の継承等が図られます。

地域に密着した食育推進の活動が活発になり、市民が食に関する意識を持ち、知識を得られるよう、より一層のボランティアの育成が望まれます。

■ 3. 第2次枚方市食育推進計画における指標の達成状況

指標		調査方法	第2次計画 策定時(24年度)	中間評価時 実績値(27年度)	現状値	第2次計画 目標値(29年度)	達成 状況	調 査 担当課
包括指標	①食育に関心のある人の増加	平成29年度枚方市「食」に関する市民意識調査(20歳以上)	80.3%	77.7%	77.0%	90%	C	健康総務課
	②食育活動を実践している人の増加	平成29年度枚方市「食」に関する市民意識調査(20歳以上)	57.0%	56.1%	68.6%	70%	B	健康総務課
基本方向1 健全な食生活の 実践	③親子で取り組める食育活動を行っている保育所(園)・幼稚園の増加	平成29年度枚方市保育所(園)・幼稚園での食育活動調査(平成28年度実績)	87.2%	88.6%	82.7%	100%	C	健康総務課
	④-1 欠食のある幼児の減少 *1日の食事回数が3回に満たない幼児の割合	平成28年度枚方市3歳6か月児健康診査問診結果	0.5%	0.4%	0.4%	0%	B	保健センター
	④-2 朝食を欠食している小中学生・高校生の減少 *小中学生:「朝食を毎日食べている」という問いに対し、「どちらかといえばしていない」、「していない」と回答した割合 *高校生:朝食を「ほとんど食べない」と回答した割合	小中学生: 平成28年度全国学力・学習状況調査結果(文部科学省) 小学6年生 中学3年生 高校生: 平成29年度枚方市「食」に関するアンケート	小学6年生 5.6% 中学3年生 11.2% 高校生 7.2%	小学6年生 5.2% 中学3年生 9.1% 高校生 5.0%	小学6年生 5.9% 中学3年生 7.9% 高校生 6.6%	小学6年生 中学3年生 0%	C B B	健康総務課
	④-3 朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少 *大学生:朝食を「ほとんど食べない」と回答した割合	平成29年度枚方市「食」に関するアンケート	男 13.1% 女 5.9%	男 20.1% 女 7.6%	男 15.5% 女 5.8%	男 10% 女 5%	C B	健康総務課 健康総務課
	⑤1 日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加(生活習慣病予防)	平成29年度枚方市「食」に関する市民意識調査(20歳以上)	89.1%	92.4%	89.4%	100%	B	健康総務課
	⑥歯科健診を受けている人の増加(歯育に関心がある人の増加)	歯周疾患検診、成人歯科健診、妊産婦歯科健康診査の受診者数の総計(平成28年度)	2,852人	4,017人	4,286人	4,500人	B	保健センター
基本方向2 ネットワークに よる食育推進と 食文化の継承	⑦食育に関する基礎的な知識を有する人材の増加	ひらかた食育理解度チェックの参加者(H26~ ひらかた食育Q&Aの参加者)	大人用 690人 子ども用 —	大人用 1,180人 子ども用 3,778人	大人用 3,493人 子ども用 11,131人	大人用 3,000人 子ども用 11,000人	A A	健康総務課
	⑧地域人材を活用した食育活動を行っている小中学校の増加	平成29年度枚方市小中学校での食育の取組に関するアンケート(平成28年度実績)	57.8%	57.1%	59.7%	80%	B	健康総務課
	⑨ボランティアが行う食に関する教室への参加者の増加	枚方市健康づくり食生活改善協議会、健康リーダーが実施する教室の参加者数の総計(平成28年度)	1,118人 枚方市健康づくり食生活改善協議会41回 健康リーダー11回	1,380人 枚方市健康づくり食生活改善協議会47回 健康リーダー10回	786人 枚方市健康づくり食生活改善協議会19回 健康リーダー9回	2,000人	C	保健センター
	⑩1 日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加(⑤再掲)(日本型食生活の継承)	平成29年度枚方市「食」に関する市民意識調査(20歳以上)	89.1%	92.4%	89.4%	100%	B	健康総務課
基本方向3 地産地消の促進 と環境に配慮し た食育の推進	⑪学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率の増加	平成28年度枚方産及び府内産農産物購入状況(米・野菜類全体購入量に対する枚方産及び府内産購入量)	18.6%	23.2%	33.1%	30%	A	学校給食課
	⑫地元農産物直販会の開催数の拡大	平成28年度枚方市実績	819回	735回	829回	850回	B	農業振興課
	⑬食べ残しや手つかず食品を処分することが多い人の減少 ※処分することが「よくある」「時々ある」と答えた人の割合の合計	平成29年度枚方市「食」に関する市民意識調査(20歳以上)	39.5%	37.5%	41.1%	20%	C	健康総務課
基本方向4 食の安全・安心 の確保と安全性 や栄養等の情報 発信	⑭食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加 *以下の3項目すべてに該当する人の割合 ■食品表示をみて、食品を購入している ■食中毒予防の三原則を知っている ■調理前や食事前に手洗いをしている	平成29年度枚方市「食」に関する市民意識調査(20歳以上)	52.6%	45.5%	22.3%	65%	C	健康総務課

## ■ 4. 第2次枚方市食育推進計画の評価と課題

### 包括指標

「食育に関心のある人の増加」の指標では、「とても関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせて77.0%で、第2次計画策定時より3.3ポイント悪化しており、目標値90%には至りませんでした。年齢別に見ると、50歳以上の世代は76%以上あるのに対し、20歳代は57.8%、30歳代・40歳代は共に72.6%と、20歳代～40歳代は他の世代より低い傾向にあります。

また、「食育を実践している人の増加」では、「積極的にしている」「できるだけするようにしている」を合わせて68.6%で、第2次計画策定時より10ポイント以上改善していますが、目標値70%には至らず、目標達成はできませんでした。年齢別に見ると、50歳代～70歳代の世代は70%を超えているのに対し、20歳代は45.6%、30歳代は66.4%、40歳代は64.4%と、20歳代～40歳代は他の世代より低い傾向にあります。

特に20歳代が食育に対する関心が低く、食育を実践している人も少ないことが顕著となっています。食に関する知識が乏しく、健康であるが故に意識が低い若い世代に対して、効果的な働きかけを行い、さらに、これから親になる世代として食に関する知識や取組を次世代に伝えつなげていけるよう食育を推進する必要があります。

### 基本方向1 健全な食生活の実践

「欠食のある幼児の減少」や「1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加」「歯科健診を受けている人の増加」の指標については目標達成には至らなかったが、第2次計画策定時よりも改善されています。

また、朝食を欠食している小中学生・高校生・大学生・専門学校生は、依然として見受けられ、第2次計画策定時よりも悪化している世代もありました。このため、これらの若い世代に対して、食に関する知識を深め、意識を高め、心身の健康を増進する健全な食生活を実践することができるよう推進する必要があります。

### 基本方向2 ネットワークによる食育推進と食文化の継承

食育に関する基礎的な知識を有する人材の増加のため、ひらかた食育理解度チェック（H26～ひらかた食育Q&A）を実施し、参加者数の目標値を達成したほか、地域人材を活用した食育活動を行っている小中学校は、第2次計画策定時から2ポイント改善はしているものの、まだ、6割程度に留まっています。

また、ボランティアが行う食に関する教室への参加者は、第2次計画策定時から数値が悪化していますが、これは、これまでボランティアが行う料理教室に積極的に参加していたグループが、食に関する知識や経験を積んだことで独立し、自ら料理教室を行うことになったため、参加者数が減少したものです。数値は悪化したものの、理由を鑑みると、ボランティアによる食育推進活動が食に関する知識等を有する人材の増加に効果的であることがわかります。

### 基本方向3 地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進

学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率は、目標を達成することができたとともに、地元農産物直販会の開催数も目標達成には至らなかったものの、高齢化による直販会の減少傾向の中でも10回増やすことができ、今後も引き続き消費者と生産者との交流を深め、地元農業への関心を高める機会の提供に取り組む必要があると考えます。

また、食べ残しや手つかず食品を処分することが多い人が約1.5ポイント増加しました。食品ロスの問題を8割弱の市民が知っている一方で、実際に行動できていないことから、今後も引き続き、食品ロス削減の必要性について認識を深め、自ら主体的に取り組むことができるよう推進する必要があると考えます。

### 基本方向4 食の安全・安心の確保と安全性や栄養等の情報発信

食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人が第2次計画策定時（平成24年度）52.6%、中間評価時（平成27年度）45.5%、現状（平成29年度）が22.3%と段階的に減少し、策定時と比較し、半分以下にまで減少する結果になりました。

これは、市として様々な啓発活動を行ってきたものの、アンケートの結果に直接結びつかず、目標達成には効果が低かったことがいえます。また、平成24年度と平成27年度に実施したアンケートと、平成29年度に実施したアンケートの設問の問い方を改めたことも、要因の一つと考えられます。

食品の安全に関する情報が氾濫する中、食品安全に対する市民の関心や不安は依然として高い傾向にあります。市民に対して正しい情報を発信するとともに、市民一人ひとりが情報を正しく選択できる力を身につけられるよう、食の安全・安心を確保する食育の取組を、引き続き、推進していくことが必要です。